

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

# 81.3 ジェット延長阻止決戦体制整う

## 1/20 成田支部定期大会、成功裡に終了す

八一・三ジェット闘争の拠点になり成田支部は、一月二十日第三回定期大会を開催し、「八一・三決戦にむけて燃えるような情熱をたぎらせ、支部一四七名組合員が一致団結し、何人も許せぬジェット延長攻撃を大ストライキで断つことを力強く組織内外に宣言するものである。」との大会宣言を満場一致採択し、佐倉支部と共に八一・三ジェット燃料貨車輸送延長阻止闘争の最先頭に起って闘うことを確認したのである。一月十六日木更津支部大会に続いて開催されたこの成田支部大会の成功をもって、三月ジェット決戦体制は、全支部的に確立された。全組合員の皆さん。一・二四総決起集会に結集し、二月助役機関士導入・線見阻止闘争を打ち抜き、二・一八千葉鉄管理局抗議・包囲闘争から、三月ストライキへ前進しよう。

### 『三月決戦にむけて全力で闘う』

日暮成田支部長があいさつ――  
大会は、来賓に関川委員長、中野書記長、反対同盟・島事務局次長、社会党成田支部・小川総支部長、成田地区労・多田議長、成田の平和を守る市民の会・宮崎氏を迎えて、組合員六〇名が参加し開催された。  
大会議長に、大野・石井(一)両代議員を選出し、最初に日暮支部長からつぎのようなあいさつが行われた。  
「過ぐる一年、動労『本部』革マル反動分子による組織破壊攻撃を粉碎し、諸闘争に精一杯頑張ってきた。この行動をになつた組合員に感謝する。三月闘争を二〇二億円のスト損賠の取り引き材料

に国労・動労中央は使うようだ。われわれは、労働連帯をかけて三月決戦にむけて全力で闘ってきたい。そのためにも一・二四集会は全力動員で取り組む。そして二月動労千葉臨時大会を成功させ、強固な組織体制を作り上げよう。」  
つづいて来賓からの激励と連帯のあいさつを受け、運動方針をめぐる討論は、  
(一)、銚子支部デッチ上げ「再建」粉碎闘争と八  
一・三ジェット闘争の取り組み  
(二)、機関士補充問題  
について質問が出され、本部・支部執行部からの答弁が出され、支部・分科・青年部が総ぐるみで三月決戦体制を確立し闘うことを圧倒的に決定したのである。

## 八一・三に起つ

## 各支部長さんにおききする その4

何人なりとも 組織破壊は許せない

蘇我支部執行委員長 古川 昇

支部長に就任して九ヶ月になりましたが、この間、いろいろな闘争がありました。八〇春闘では、四月十六日拠点支部として整然とストに突入しました。労働運動の戦闘的再生をかけた闘いとしては一つの成果であったと確信しておりますが、春闘そのものは敗北ではなかったかと思えます。

これからの春闘は、生活防衛という闘いの中で強力な見なおしが必要ではないかと思えます。しかしながら、労働者の生活防衛につながる諸問題に勝利するには、保守支配体制下では非常に険しい道程ではありますが、これに打ち勝っていかなければ労働者の幸せは絶対にこないと思えます。このような中で動労千葉が開始してきた三里塚ジェット闘争はもとより、五五・一〇ダイヤ改悪に敢然と闘ってまいりましたが、これから来るであろう八一・三ジェット延長阻止闘争・八一春闘・三五万人体制攻撃と多様な反動攻撃が次

々と襲ってきます。われわれはこの反動攻撃と闘い勝利していかなければなりません。ここに、動労千葉破壊策動が進められています。われわれは動労千葉の組合員として動労千葉があるかぎり、何人なりとも組織の破壊を許してはなりません。さらに組織強化のため、職場討議を行ないつつ、団結して前進をちかとしていきたいと思います。万人は一人のために、一人は万人のために。という労働者の基本を自覚し一致団結して、不当処分粉碎・三五万人体制粉碎・三里塚・ジェット闘争に総力決起しよう。